

MIRAI SAKAI EXPO 会議 議事要旨

○日時 令和 8 年 4 月 13 日（月） 14:30～15:15

○場所 堺市役所 本館 3 階 大会議室

○主な出席者

堺市：

永藤市長、佐小副市長、本屋副市長、角田副市長、政策局長、文化観光局長、産業振興局長、
建築都市局長、建設局長、教育次長

経済団体等：

葛村堺商工会議所会頭、菊地堺観光コンベンション協会会長、堺商工会議所専務理事、堺商工会議所常務
理事、堺観光コンベンション協会事務局長、さかい新事業創造センター代表取締役専務、堺市産業振興センター
副理事長

○議事概要

会議の開催に先立ち、永藤市長、葛村堺商工会議所会頭から挨拶があり、その後、万博レガシーを活用した万博閉
幕後の取組状況や今後の取組等について説明があり、会議出席者間で意見交換した。

意見交換では、万博レガシーの効果的な活用等について議論された。

【永藤市長挨拶要旨】

本日 4 月 13 日は大阪・関西万博の開幕からちょうど 1 年。万博期間中は経済団体等の皆様とともに春夏秋の堺
市主催催事などに取り組んだ。また、海外パビリオン、シグネチャーパビリオンとも様々な企画で連携等を行った。多くの市
民や市内団体が活躍し、堺として貴重な成果と経験が得られた。

こうした取組により、万博期間中は国内外から多くの方々が堺を訪れるなど経済効果が生み出され、その効果は閉幕
後も続いている。「OSAKA SAKAI EXPO」をテーマに再び万博を味わえる内容として趣向をこらした「紐とけば堺 2026」
では、市内施設でこれまでにない来館者数を記録した。万博の熱気は冷めておらず、この先も続く実感できた。

万博で多くの挑戦を行った堺だからこそ、万博レガシーを活用した取組により更なる堺の発展につなげたい。

【葛村堺商工会議所会頭挨拶要旨】

1 年前は万博に対する盛り上がりは欠けており、開催自体に懸念もあった。しかし、閉幕直前の 9、10 月は来場者数
が 20 万人を超える日も多く、非常に熱気があった。

閉幕後の昨年 10 月に実施した「チェコフェスティバル 2025in 関西」では 3 万人もの来場者を記録し、6 割以上が市
外からの来場者で万博効果の大きさを実感した。堺商工会議所でも、オープンファクトリーや出展した企業等による交流
会を実施し活気ある取組を行うことができた。こうした取組を万博レガシーとして継承し引き続き全力で取り組みたい。

【万博レガシーを活かした取組について】

- ・政策局長、文化観光局長から万博閉幕後の取組状況について説明
- ・文化観光局長、建築都市局長、建設局長、産業振興局長、堺商工会議所から「歴史文化資源を活かした地域
活性化」に係る今後の取組について説明
- ・政策局長、文化観光局長から「つながり・交流の継続・発展」に係る今後の取組について説明
- ・教育次長から「こどもたちの未来を切り拓く力の育成」に係る今後の取組について説明
- ・政策局長、文化観光局長から「生活の質の向上」に係る今後の取組について説明

【意見交換での主な発言】

- ・世界遺産である百舌鳥古墳群を活用したイベントや情報発信を検討してはどうか。
- ・現在夢洲で会場整備が行われている IR は継続的に観光客を呼び込めるコンテンツであると思う。来場が見込まれるインバウンド富裕層を見据え、クルーザーの誘致等、堺旧港の活性化につながる取組を期待する。
- ・シグネチャーパビリオン「いのちの未来」のテーマ事業プロデューサーである石黒浩大阪大学教授とは、万博開幕前からアバターを活用した障害者・高齢者支援を行っており、今後もアバターや新技術を活用した取組を継続して実施する。
- ・市内施設来場者数等の毎月の動向を引き続き注視し、観光や産業分野における万博レガシーの取組を検証、改善することが必要。
- ・万博期間中に交流がなかった国や企業とも万博を共通項として連携できる可能性があるため、視野を広げた行動が必要。
- ・堺は伝統的な茶の湯に加え、竹のインスタレーションや花に囲まれた特別な空間での茶会、現代アート茶器等の新しい要素を取り入れた呈茶体験など茶の湯の魅力発信に取り組んだ。和敬清寂や一期一会といった茶の湯の精神は、万博のテーマである「いのち」の大切さに通ずるもの。「茶の湯が息づく堺」として引き続き世界に向けた発信に取り組む。
- ・横浜等で開催される「2027 年国際園芸博覧会」では、共同出展する大阪府・大阪市とともに万博の効果を引き続き継承することが必要。